

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2772201832		
法人名	和田建設株式会社		
事業所名	グループホーム・田島サンライフ		
所在地	大阪市生野区田島四丁目3番2号		
自己評価作成日	令和5年9月8日	評価結果市町村受理日	令和5年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設では、アットホームな雰囲気を感じて頂ける事を目指し、利用者さまお一人お一人の思いや、その人らしさを大切にし、支援させて頂いております。 また、屋上では、コロナ禍で外出する事ができない時も利用者と一緒に散歩したり、野菜を育てて収穫を楽しんだり等で活用しており、時には洗濯を干す事もあります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地元で建築業を営んでいた創設者の父が長く民生委員をしており、もっと地元で貢献したいとの思いを持ち、住まいであった土地にグループホームを2005年設立し、18年の歴史がある。地域とのつながりが深く優れた点であったが、長引くコロナ禍で失われてしまい残念なことである。 食事は開設時から管理者が買い物に行き、その日のスタッフが冷蔵庫を開けてみて献立を決めて調理するという、普通の家庭の食事風景を再現している。「おいしく食べることが幸せ」の信念は強く、土用の丑の日にはウナギを食べたり、暑い日に「そうめんが食べたいな」という利用者の声にすぐに応えることができるのが強みである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアにある申し送りファイルに入れているので、常時スタッフが認識を深め共有する事ができるように努めている。また、自由に入出りできる事務所にも掲示してある。	「自立を目指し、生活リハビリを中心とし、入居者様ひとり一人がその人らしい生活を送れるように支援しご家族・地域の方々が気軽に相談・利用できる開かれた施設を目指す。」を理念としている。日々管理者ができているかどうかを気かけ、問題があれば個人的に注意したり、会議で話題にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩が可能な時には出掛けて、近所の方と挨拶をかわしたりしているが、コロナ禍の為、地域の行事には参加できておらず、地藏盆のみ参加している。	元々、創設者は地元住民で地域とのつながりは深く、いろいろな行事に参加していた。コロナ禍の現在は散歩のときに挨拶する程度になっている。地藏盆には近くのお地藏様にお供えをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、相談に応じるようにしている。見学もその時の状況に合わせて対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、施設内での運営推進会議は実施しておらず、ZOOMを活用したり、書面での報告で対応しており、意見やアドバイスを頂いて、サービス向上に努めている。	現在はリモートで行っていて、参加者は地域包括、出入りの薬局、鍼灸院と施設側であり、町会・家族・利用者は参加していない。(コロナ感染予防)当面はこの方法で行う予定である。議事録は大阪市の様式を使っており、意見・要望とも記載がある。議事録は全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、その時々での頻回な電話連絡等を通し、日常的な関わりを築く様に取り組んでいる。	本年6月に行政の実地指導を受けた(特段の問題や指摘はなかった)。生活保護受給者がおり必要な連携を行っている。グループホーム連絡会は管理者が役員をしていることもあり活発に活動をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除についての研修を年2回は行っており、また、新入社員(パートも含む)にも実施している。玄関の施錠に関しては、今後、状況に応じて対応していく。	前回調査時は身体拘束適正化委員会の記録の書き方に不備が指摘されたが、今回は実地指導もありすべて完璧に行われている。建物玄関はナンバーロックされているが、日中は自由に往来でき、毎日屋上庭園に行ったり、違う階の兄弟に会いに行く利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除と同様に併せて研修を実施している。 また、更衣時や入浴の際にも、身体状況の確認・報告の実施を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様もおられる。又、今後、必要性が生じた際には、活用できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容説明を行っているが、疑問が生じた際には、随時質問を受け付け、相談にももの旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、メール、電話等でのやり取りの中で、要望や意見を聞き、可能な限り対応している。	面会制限があるので、家族との連絡は主にラインを使っている。サンライフ新聞を定期発送し、全家族に送っている。後見人がついている人にはそちらへ送ることになっているが、送付を希望する家族(娘)がおり、そちらにも送っている。利用者家族の要望は小さなことでも対応していることが記録により確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を出す事ができるようにしており、フロア会議やメール等も活用して意見を聞く体制を整えて運営に反映できるように努めている。	管理者は現場経験があり、今も現場に行くことが多く職員との会話は頻繁にあり、意見が活発に出るといふ。職員面談でも「スタッフ全員で情報を共有し話し合えるので、やりたいことが実現できるところが働きやすい」との声が聞かれた。	現在コロナや人手の関係で職員の外部研修は行われていない。条件がそろえば、外部に行って知識やスキルを獲得し職員の資質が向上することを管理者は考えている。実現することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や働き方の時間等の要望を聞き、各自がやりがいを持って働く事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は、2人のスタッフが資格を取得したが、その際には、シフトの調整も行った。また、定期的に研修を行う等もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟しており、勉強会に参加したり、電話やメールで情報交換したりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・申し込みの際等、事前に困っている事、望んでおられる事等を聞き取り、安心して過ごして頂ける様に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所のご相談があった際は、丁寧に聞き取りを行っている。また、後からも疑問や不安に感じる事があれば、その都度、話を聞いて相談にのりますと伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に聞き取りした事をもとに、支援計画を立て、ニーズに沿って支援していく事ができるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事を行ったり等、「できる事は見守りながらして頂く」支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を報告する際に、今後どうして欲しいのか等の要望も聞き、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ずっとカットしてもらっていた美容室の方に来て頂いて、カットをお願いしたりしており、その関係を今も継続している。	コロナ禍ではなかなか難しい課題だが、在宅のころ家庭菜園をしていた人が、入所後も屋上菜園で野菜づくりを楽しんでいたりと、宗教関係のつながりを大切にしている利用者を支援している例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での座り方等にも配慮し、一緒に楽しく過ごして頂ける様に、その時々に応じた声掛けをしりして、調和が取れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、メールや電話にて、連絡を取っており、相談にのったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、本人にとって、今、何が必要なのか等を、スタッフ間で、報告・情報共有し、そこからニーズを検討したりしている。	夕食後に入浴したいと希望する利用者にはそれを実施している。起床時間が自由なので、それに合わせて朝食時間も一人ひとりに合わせている。個人の希望は「○○が食べたい」が多いが、調理を自前でしているので可能な限り実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや、ご家族様より入所前のアセスメントで把握し、また、本人からも可能な限り話を聞く様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごしている様子をケースや申し送りから把握できるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その日、その日の本人の行動をケースに記入し、モニタリングをして、その中で気づいた事等を報告しあい、次の支援につながる事ができるようにしている。	計画作成者とスタッフはこまめに情報交換と話し合いを行い計画書を作成している。介護記録の表紙にサービス内容を転記し、項目ごとに毎日評価している。家族へは電話や訪問時に話をして意向を日常的に確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日2回の申し送りをケース記入や介護日誌を活用して行い、気づきの報告を行う事で、ケアプラン作成に反映させる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部受診の際にも、ご家族様が無理な時等、スタッフが代わりに対応するなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、なかなか地域とのかかわりはもたなくなってきているが、いつも来て頂いているボランティアの方々には、電話で話したりして関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時より希望される場合には、入所前から同じ医師に診て頂く様にさせて頂いている。	入所後は、関係医療機関の医師をかかりつけ医と決めた利用者は全員に、2週間毎に内科と歯科の訪問診療がある。入所前からのかかりつけ医は、精神科(1名)、メンタルクリニック(6名)の訪問診療のほか、鍼灸師が有りの来所もある。眼科は、2名がそれぞれ家族同行の上受診している。すぐ隣に脳神経外科病院があり、必要に応じて相談や治療を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では、看護職の職員は、所属していないが、体調を崩されたりした際には、急性期での訪問看護を利用したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、連絡を待つだけでなく、こちらからもMSWに連絡を取るようになり、情報交換や相談しあえる様、関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前より重症化や終末期に向けた当施設の取り組みについて説明しており、また、体調の変化が見られた際には、その都度、連絡を取って話をし、支援している。	入所時に「重度化対応・終末期ケア対応の指針」に基づき説明し、家族等の同意を得ている。終末期には、医師が家族等に状態を説明のうえ同意書を交わし看取りケアに入る。夜間でも職員から緊急連絡が入れば、管理者が適切な指示を行い事業所に駆けつける体制になっている。職員は、家族の感謝の言葉に癒されている。昨年は4名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるよう、マニュアルをフロア内の壁やケースファイルに貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成して申し送りケースに貼って周知しており、地域とも「きずなマップ」を作成したりしている。	最大懸念の災害は、地震と近隣からの火災で、防災マニュアルを整備し避難訓練を年2回実施している。夜間火災・2階からの避難・一時避難所への集合等のシミュレーションや避難所への安全ルートマップも地域との協力で作成済みである。備蓄品は、概ね3日分を3階倉庫に保管し、災害時に絶対必要なものを管理者のグループホーム連絡会等で共有し準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝、起きる時間や食事提供の際にも、声掛けの仕方やタイミング等も個々に合わせて対応している。	個室・トイレや風呂などハード面のみならず、利用者への呼びかけ・声掛けなどソフト面での一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを大切にするケアに努めている。共用部に面したトイレには、アコーディオン型衝立の設置を検討している。呼びかけは、お互いが理解し合い利用者や家族の同意があれば、あえて愛称で呼ぶことで家庭的な雰囲気作りもしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩へ行くか行かないか等も、本人に確認し、「後から行く」「今日は行かない」等も含めて確認して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、入床時間等も「希望があるのか」等を確認したり、「部屋で過ごすのか」「フロアで過ごすのか」等も同様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの髪型等も確認してカットをしてもらっている。 入浴後、自身でヘアセットできる様に等、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普通食や一口大、刻み、ミキサー食等、個々の状況に合わせて提供している。 食後の後片付け等も手伝って頂いている。	食事は、利用者がおいしいものを食べ幸せになることを願い、3食とも職員が交代で調理しており、利用者や家族に好評なことがアンケート回答からも窺える。管理者自らがスーパーのチラシ等を見比べ職員の希望等も参考に、食事レクレーション等の季節食材を工夫して安価な購入に努めている。お茶碗・箸・湯呑は家庭で馴染みのものを使っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分量や主食の量を決めて提供している。トロミが必要な方や高たんぱくゼリーが必要な方にも、それぞれ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けや上手くできているかの見守り・確認を行い、「すすぎ」が上手く出来ない方には口腔ウェットティやスポンジ活用して対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認して個々のリズム等も把握して対応している。トイレ誘導時以外で、訴えがある時にも支援している。	日中は、布パンツの使用の方もおられ、パッドを併用する利用者のほか、1名が常時おむつを使用している。各階1か所のトイレには、男性用便器が設置され、2名が利用している。排泄パターンを参考に、利用者のトイレでの排泄を支援し、パッド・おむつの使用を減らすように努めている。夜間は、2時間毎に巡回し必要に応じパッド交換するなど排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューのかたよりに注意し、水分をこまめにとって頂き、それでも困難な時は、医師と連携して服薬調整を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕食後に入られる方もいらっしゃる等、個々の希望がある時には、できる限り優先しての対応を行っている。	大きめの一般家庭用浴槽を設置し、利用者全員(二人介助の2人を含め)が湯船に浸かることで入浴を楽しんでいる(1階には、リフトの設置もあり)。お湯は毎回取り換えており、バスマットも一人ひとり交換し、ボディスポンジも各人毎に用意するなど衛生面に配慮している。週2回、午後を基本とするが、夕食後に楽しむ利用者にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況を見て自室で休んで頂いたり、時間をある程度決めて定期的に休んで頂くなどして、個々に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携して服薬管理を行い、正しく服用して頂くように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや、洗濯物たたみを手伝って頂いたり、好きなTV番組を録画しておき、見て頂く等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前は、一緒に買い物へ行ったり、外出に制限が無かったが、現状では、1日2回の散歩にとどまっている。	利用者の希望に応じ、職員と事業所周辺を散歩している。また、屋上広場の散策・ベンチでの外気浴やガーデニングの手入れ等も楽しめる。調査訪問時には利用者一人が雑草の手入れ中であった。菜園には、ししとうやバジルが育っており、野菜の収穫があれば食材として調理に利用することもある。いずれにせよ屋上庭園が利用者の憩いの場となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いを預かっているため、本人が希望し、買いたいものがあつた時は、連絡を入れて、買わせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「子供に掛けさせて欲しい」とおっしゃった際には、事前にご連絡をしてから、かけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには、汚れた際に、すぐ掃除ができる様に、豆ピカを配置し、消臭スプレーや消臭剤を置いている。 浴室は一人ひとりバスマットを交換し、体を洗うスポンジも個々に用意している。	共用空間は、テーブルやソファ自由に配置換えができ、1階では利用者がソファやテーブルに集まり一人ひとりが思い思いにゆったり過しているのが観察できた。共用部分には小上がりの和室も設置され、2階では看取りの場など有効に利用されている。南向きの窓からの光や冬には床暖も用意され、空間全体が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの真ん中にソファを置いてゆっくりTVを見て頂く事ができるようにしており、他にも、和室・カウンター、テーブル等も活用して過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から使用していた物等を持ってきて頂き、自室内に置いて頂いている。	居室は、食堂と居間の共用部分を中心に和室6・洋室3の計9室がL字型に配置されている。各部屋には、大きな収納・エアコン・ベッド・照明やLED懐中電灯等が予め設置され、大きな窓の外にバルコニーが続いている。居室には、使い慣れた馴染みの家具・親族の写真や仏壇を置いた部屋もあり、それぞれの自分らしさを演出した住処になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保した上で、個々に合わせた過ごし方を提供しての支援をしている。		